

江東区 有明体操競技場 ウッドデザイン賞2020 最優秀賞受賞



外壁の半分以上に天竜材が使われている
有明体操競技場（浜松市提供）

12月11日 第6回を迎える「ウッドデザイン賞2020」の432点の応募作品の中から、最優秀賞（農林水産大臣賞）に東京五輪・パラリンピックの新設会場である有明体操競技場（東京都江東区）が選ばれました。

受賞理由として事務局は、日本の伝統的な木造建築の美しさを挙げた上で「日本の『木を使い、木と親しむ文化』の海外への発信を担うにふさわしい作品」と評価しています。



同競技場は五輪の新設会場で最大となる約23000立方メートルの木材を全国から集めて建てられ、外壁約800立方メートルのうち、426立方メートルには持続可能な森林管理の国際基準「FSC認証」を受けた天竜スギが使用されています。

浜松市は、市長のトップセールスをはじめ、官民が一体となって森林認証による天竜材のブランド化に積極的に取り組み、地産地消はもとより全国屈指のFSC認証材供給能力を発揮しています。関東森林管理局天竜森林管理署においても、昨年1月に約3000立方メートルを追加認証するなどFSC材の安定供給に努めているところです。



※ウッドデザイン賞は、木の良さや価値を再発見させる製品や取組について、木で暮らしと社会を豊かにするモノ・コトを消費者目線で評価する新しい顕彰制度です。